

羅針盤

平成 29 年度 第 12 号 (通算 290 号)
平成 30 年 3 月 2 日 (金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

小学校プログラミング教育全面実施に向けて

新学習指導要領では、小学校段階において学習活動としてプログラミングに取り組むことになっていきます。このねらいは、児童がプログラミング言語を覚えたり、その技能を習得したりといったことではなく、「**プログラミング的思考**」と呼ばれる論理的な思考力を育むことや、各教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けさせることにあります。各小学校においては、こうしたプログラミング教育のねらいを踏まえ、教科等における学習上の必要性や学習内容と関連付けながら、無理なく確実に実施できるよう、教育課程全体を見渡し、プログラミングを実施する教科・学年・単元を決定し計画していくとともに、必要な ICT 環境を整えていくことが求められます。また、教員自身が研修等においてプログラミングを体験することも有意義と考えられます。

全面実施に向けて県内でも多くの実践が行われていますので、ここでは、主な実践を紹介します。

笠岡市立神内小学校 第 6 学年

内容 人とロボットが言葉でコミュニケーションできるプログラムの作成

主教材 ロボホン(SHARP)



早島町立早島小学校 第 6 学年

内容 省エネにつながるセンサーライトの仕組みをプログラミングで再現

主教材 MESH (SONY)



新見市立新砥小学校 第 5・6 学年

内容 観光客を案内するプログラムを作成し、プレゼンテーションを実施

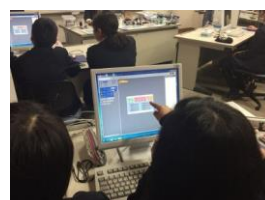
主教材 Pepper (SoftBank)



西粟倉村立西粟倉小学校 第 6 学年

内容 プログラミングで歩行者用の信号機の動きを再現

主教材 アーテックロボ (アーテック)



この他にも、ブラウザ上で動くプログラミング教材である「プログル」<https://proguru.jp/> (特定非営利活動法人みんなのコード) を活用した実践も行われています。

なお、文部科学省は、プログラミング教育の趣旨等をより分かりやすく解説した「小学校プログラミング教育指針」(仮称) を本年度中に取りまとめる予定です。(担当：情報教育部)